

長崎の興福寺

〈会期〉

平成21年(2009)8月19日(水)～9月27日(日)

〈会場〉

九州国立博物館文化交流展示室 関連第11室

長崎の昼しづかなる唐寺たうてらや

おもひいづれば白しろきさるすべりのはな

斎藤茂吉



寛永12年(1635)唐船(中国船)の入港が長崎に限定され、以来長崎港に来航する唐船の数と長崎に居留する唐人(中国人)の数も急増しました。長崎の唐人たちは出身地ごとに「幫」と呼ばれるコミュニティーを形成し、寄合所に媽祖神像を祀って航海の安全を祈りました。これが唐人による唐人のための寺院、いわゆる唐寺の建立へとつながっていったのです。

長崎最古の唐寺・東明山興福寺は、元和6年(1620)に渡来した真円が同9年に媽祖像を安置するための小庵を結んだのが始まりとされています。やがて江南・江西・浙江のいわゆる三江地方出身者の帰依を集め、寺観が整備されてゆくとともに、多くの渡来僧が集まりました。承応3年(1654)には中国の禅僧・^{いんげんりゅうき}隱元隆琦(1592-1673)が長崎渡来後まず興福寺に入り、日本における^{おうばくしゅう}黄檗宗発展の礎がここに築かれました。隱元を始めとする渡来僧は、布教のかたわら当時最新の中国文化を直接伝え、彼らを取り巻く多くの日本人僧俗の関心を集めました。

このたびのトピック展示は、長崎の興福寺に伝わる貴重な文化財の一部を展観し、長崎における中国文化の受け入れ基盤として機能した唐寺の歴史的・文化的役割の一端を紹介しようとするものです。

このたびのトピック展示は、長崎の興福寺に伝わる貴重な文化財の一部を展観し、長崎における中国文化の受け入れ基盤として機能した唐寺の歴史的・文化的役割の一端を紹介しようとするものです。

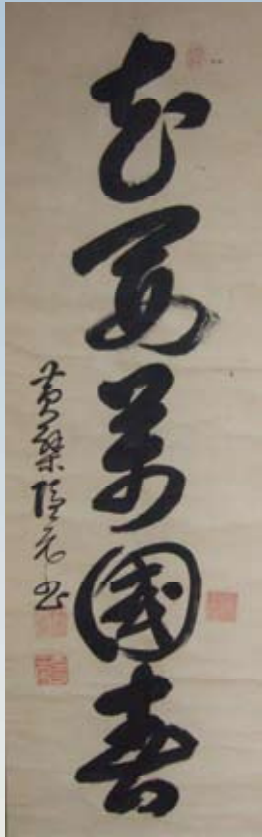
このたびのトピック展示は、長崎の興福寺に伝わる貴重な文化財の一部を展観し、長崎における中国文化の受け入れ基盤として機能した唐寺の歴史的・文化的役割の一端を紹介しようとするものです。

^{いんげんりゅうき}隱元隆琦墨蹟「花開萬国春」
江戸時代(17世紀) 長崎・東明山興福寺所蔵



^{いんげんりゅうき}隱元隆琦像(部分) 喜多元規筆
江戸時代(17世紀) 長崎・東明山興福寺所蔵

長崎の興福寺



^{いんげんりゅうき}隱元隆琦墨蹟「花開萬国春」
江戸時代(17世紀) 長崎・東明山興福寺所蔵

出品目録

名称	員数	時代	年代	作者	所蔵
1 密雲円悟・費隱通容・ 隱元隆琦像	3幅	江戸時代	天和2年(1682)賛	木庵性瑫賛	長崎・東明山興福寺
2 隱元隆琦・独湛性瑩・ 悦峯道章像	3幅	江戸時代	17世紀	喜多元規筆、 独湛性瑩・悦峯道章賛	長崎・東明山興福寺
3 祖師源流図	1幅	江戸時代	18世紀	山本若麟筆	長崎・東明山興福寺
4 祖師源流図	1幅	江戸時代	18～19世紀		長崎・東明山興福寺
5 東廬之山水図	1幅	江戸時代	寛永19年(1642)跋	伊兼跋	長崎・東明山興福寺
6 ^{長崎市指定} 隱元隆琦墨蹟	3幅	江戸時代	17世紀		長崎・東明山興福寺
7 隱元隆琦墨蹟	1隻	江戸時代	寛文11年(1671)		長崎・東明山興福寺
8 木造韋駄天立像	1軀	江戸時代	17世紀		長崎・東明山興福寺
9 銅造誕生仏立像	1軀	中国・明-清時代	17世紀		長崎・東明山興福寺
10 銅造観音菩薩坐像	1軀	中国・清時代	18世紀		長崎・東明山興福寺
11 白衣観音図	1幅	中国・明-清時代	延宝4年(1676)賛	陳賢筆、木庵性瑫賛	東京国立博物館
12 観音変相図 38幅のうち	7幅	江戸時代	延宝7年(1679)	鶴洲靈鷲筆、木庵性瑫・ 高泉性激・千呆性俊賛	東京国立博物館
13 白衣観音画帖	1帖	江戸時代	天保2年(1831)	高橋草坪模、 原本：陳賢筆	個人蔵